

日本 百景

四季が織りなす、日本の絶景コース

僕達の心を癒してくれる

ニッポンの美。

NIPPON Beauty Course

スコットランドのリンクスに壮大な原野があり、米国の西海岸に荒々しい海景色があるように、我がニッポンにも紅葉、桜、そして四季という日本ならではの美しさがある。ここでは、そんな日本国内のゴルフ場を厳選し、日本を代表する名門コースから隠れた名コースまでを紹介していこう。



富士桜カントリー倶楽部(山梨)

18Hole Par72(7112Yard)
「フジサンケイクラシック」の舞台としても有名な富士桜CCは、富士景色と桜が有名だが、本当の見頃は10月の紅葉シーズン。紅く染まった木々の隙間から見える富士はまさに絶景だ。

川奈ホテルゴルフコース 大島コース(静岡)

18Hole Par70(5711Yard)
言わずと知れた日本を代表する名門コースで、特に美しいのは桜の季節。敷地内には大島桜、寒桜と沢山の種類の桜の木々が並び、川奈の名物と言われる海景色と絶妙な調和を醸し出す。

一度は訪れたい、日本列島を彩る絶景コース。



北海道クラシックゴルフクラブ(北海道)

18Hole Par72(7059Yard)
設計を手がけた帝王ジャック・ニコラスが「私が日本で作ったコースで、最高のコースであることは間違いない」と語った自信作。雄大な自然と大胆なウォーター・ハザードが、北海道ならではの自然空間を作り出している。



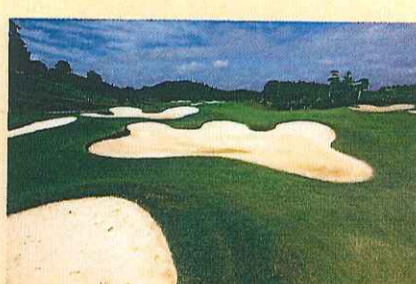
夏泊ゴルフリンクス(青森)

18Hole Par72(7124Yard)
スコットランドに近い北国・青森の気候と、海沿いという立地条件だからこそ実現した本場・英国風の名リンクス。フェアウェイのアンジュレーションや深めのバンカーは「聖地」を彷彿させる光景だ。



ボナリ高原ゴルフクラブ(福島)

18Hole Par72(7010Yard)
紅葉のメッカとして知られるこのゴルフ場は、コース全体が磐梯朝日国立公園に囲まれている。秋の紅葉シーズンには、コースを取り囲む会津磐梯山や吾妻連峰の壮大な紅葉が一望できる。



大原・御宿ゴルフコース(千葉)

18Hole Par72(6862Yard)
日本が世界に誇る名設計家・井上誠一が最後に手がけたゴルフ場で、コース内には110個のバンカーがあり、18ホールをとおしてエキサイティングなレイアウトが魅力だ。



鳴沢ゴルフ倶楽部(山梨)

18Hole Par72(7017Yard)
標高1100メートルの、富士山麓のなだらかな地形に広がるゴルフ場。特に8番のショートホール(写真)は富士山に向かって池越えのティショットを打つという、美しいワンシーンを体験できる。



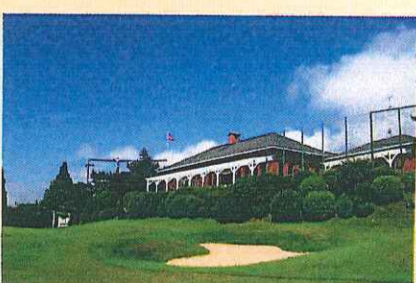
かさぎゴルフ倶楽部(京都)

18Hole Par72(7011Yard)
平成12年開場という新しいコースながら、随所にある大きなウォーター・ハザードやビーチバンカーなど「水際の景観」に恵まれたゴルフ場。若い女性ゴルファーからも人気の高いコースだ。



大阪ゴルフクラブ(大阪)

18Hole Par72(6351Yard)
世界中のゴルフ場から名コースを選ぶ「ロレックスワールド1000」にも選ばれた大阪GCは、関西で唯一のシーサイドコース。高台から見下ろす大阪湾は、爽快な気分を演出してくれるだろう。



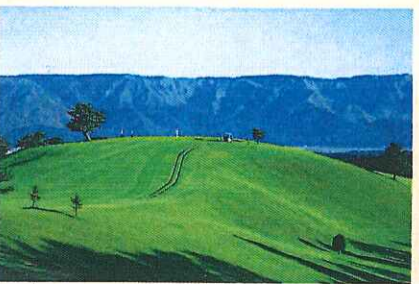
神戸ゴルフ倶楽部(兵庫)

18Hole Par61(3790y)
1903年、英国商人A・H・グルーム達が造った日本初のゴルフ場で、日本ゴルフ生誕の地である。現在も、当時のレイアウトをほぼ変えていないだけに、深みのある歴史を感じられる。日本人なら一度は訪れたい場所だ。



JFE瀬戸内海ゴルフ倶楽部(岡山)

18Hole Par72(6904Yard)
全英オープンの子選会も兼ねた「ミズノオープン」の舞台になっている、超本格派のリンクスコース。岩石や大きな池がハザードになっており、自然と調う醍醐味が味わえるコースだ。



くまもと阿蘇カントリークラブ(熊本)

18Hole Par72(6656Yard)
熊本最古の歴史を誇るコース(昭和27年開場)は、世界最大級のカルデラ(マグマ跡の空洞)の上で作られたコース。周辺を阿蘇外輪山に囲まれており、山間の風景を楽しみながらプレーできる。

ジャパニーズビューティの原点 井上誠一の「自然美」。



井上誠一
(1908~1981年)
1930年代に川奈GCを視察中のゴルフ設計家C・H・アリソン(英国)を師事し、設計家の道を歩む。その後は幾ヶ台CC、大洗GC、鷹之台CC、葛城GCなど日本全国で今や名門とよばれるコースを設計。

日本の「コース美」を語る上で欠くことのできない人物が、ゴルフ場設計の第一人者・井上誠一だ。名門コースと呼ばれる数多くのコース設計に携わった井上だが、その真骨頂が「自然美」を生かしたコースレイアウトだ。代表作とも言える大洗GC(写真左)ではコースに隣接する2万5千本の松林を生かし、見事なシーサイド林間コースに仕上げた。没後20年経った今も「井上誠一設計コース」の看板は色褪せることなく、さらに名声を高めている。

